

貸借対照表

(2024年3月31日現在)

(単位 千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	39,645,293	流 動 負 債	14,195,790
現金預金	100,862	電子記録債務	2,551,053
電子記録債権	621,489	工事未払金	6,683,681
受取手形	21,368	リース債務	33,084
完成工事未収入金	21,884,456	未払金	648,019
契約資産	12,619,657	未払費用	548,770
未成工事支出金	58,785	未払法人税等	855,547
材料貯蔵品	3,063,021	契約負債	323,581
短期貸付金	22,143	完成工事補償引当金	23,746
未収入金	373,461	工事損失引当金	868,401
その他流動資産	263,577	賞与引当金	1,100,434
預け金	619,920	その他流動負債	559,470
貸倒引当金	△3,450	固 定 負 債	8,421,368
固 定 資 産	29,758,170	長期未払金	3,720
有 形 固 定 資 産	8,840,109	リース債務	86,094
建物	3,922,151	資産除去債務	124,795
構築物	144,447	長期預り金	29,680
機械	73,972	退職給付引当金	6,221,530
車両運搬具	1,215	繰延税金負債	1,955,547
工具器具・備品	343,525	負 債 合 計	22,617,158
リース資産	109,424	純 資 産 の 部	
土地	4,036,641	株 主 資 本	36,980,600
建設仮勘定	208,732	資本金	1,091,900
無 形 固 定 資 産	119,782	資本剰余金	742,523
借地権	9,500	資本準備金	742,523
ソフトウェア	80,632	利 益 剰 余 金	35,347,233
その他無形固定資産	29,650	利益準備金	272,975
投 資 そ の 他 の 資 産	20,798,278	その他利益剰余金	35,074,258
投資有価証券	4,392,661	配当引当積立金	195,500
関係会社株式	15,682,105	退職給与積立金	400,000
出資金	45,606	固定資産圧縮積立金	430,002
リース投資資産	69,599	別途積立金	20,800,000
長期貸付金	29,544	繰越利益剰余金	13,248,755
敷金保証金	517,875	自 己 株 式	△201,055
破産債権、更生債権等	687	評価・換算差額等	9,805,704
長期未収入金	2,800	その他有価証券評価差額金	9,805,704
長期前払費用	64,237	純 資 産 合 計	46,786,304
貸倒引当金	△6,837	負 債 ・ 純 資 産 合 計	69,403,463
資 産 合 計	69,403,463		

損 益 計 算 書

(2023年4月1日から
2024年3月31日まで)

(単位 千円)

科 目	金	額
完 成 工 事 高		55,506,524
完 成 工 事 原 価		48,599,376
完 成 工 事 総 利 益		6,907,147
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		4,918,867
営 業 利 益		1,988,280
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 ・ 配 当 金	218,623	
受 取 地 代 家 賃	95,315	
貯 蔵 品 発 生 品 売 却 益	75,065	
そ の 他 営 業 外 収 益	83,540	472,544
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	5,373	
出 向 人 件 費 差 額 負 担 金	150,584	
そ の 他 営 業 外 費 用	246,682	402,641
経 常 利 益		2,058,184
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	115	115
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	16,371	16,371
税 引 前 当 期 純 利 益		2,041,928
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税	826,064	
法 人 税 等 調 整 額	△223,724	602,339
当 期 純 利 益		1,439,588

株主資本等変動計算書

(2023年4月1日から
2024年3月31日まで)

(単位 千円)

	株 主 資 本											
	資本金	資本剰余金		利 益 剰 余 金						自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	そ の 他 利 益 剰 余 金				利益剰余金合計			
				配当引当積立金	退職給与積立金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金				
当 期 首 残 高	1,091,900	742,523	742,523	272,975	195,500	400,000	436,693	20,800,000	11,884,087	33,989,256	△201,055	35,622,623
当 期 変 動 額												
剰余金の配当									△81,611	△81,611		△81,611
固定資産圧縮積立金の取崩							△6,691		6,691	-		-
当期純利益									1,439,588	1,439,588		1,439,588
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)												
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	△6,691	-	1,364,667	1,357,976	-	1,357,976
当 期 末 残 高	1,091,900	742,523	742,523	272,975	195,500	400,000	430,002	20,800,000	13,248,755	35,347,233	△201,055	36,980,600

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当 期 首 残 高	7,511,899	7,511,899	43,134,523
当 期 変 動 額			
剰余金の配当			△81,611
固定資産圧縮積立金の取崩			-
当期純利益			1,439,588
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,293,804	2,293,804	2,293,804
当期変動額合計	2,293,804	2,293,804	3,651,781
当 期 末 残 高	9,805,704	9,805,704	46,786,304

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

- ・子会社及び関連会社株式 移動平均法による原価法
- ・其他有価証券
 - ・市場価格のない株式等 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
 - ・市場価格のない株式等 移動平均法による原価法

② 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ・未成工事支出金 個別法による原価法
- ・材料貯蔵品 先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっています。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	3～50年
構築物	2～60年
機械	6～17年
車両運搬具	2～7年
工具器具・備品	2～20年

また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却しております。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっています。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっています。

③ 長期前払費用

均等償却をしております。

④ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっています。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 完成工事補償引当金

完成工事に係る契約不適合の費用に備えるため、当事業年度末に至る1年間の完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。

③ 工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。

④ 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払に備えるため、過去の支給実績を勘案し、負担すべき実際支給見込額を計上しております。

⑤ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっています。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（14年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 収益及び費用の計上基準

設備工事においては、主に電気設備の新設及び撤去、改良等の工事契約を締結しております。それらは、一定の期間にわたり履行義務が充足されると判断し、履行義務の進捗度に応じ収益を認識しております。また、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い工事契約については代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。なお、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合には、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができる時まで、一定の期間にわたり充足される履行義務については原価回収基準により収益を認識しております。

(5) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっています。

2. 会計上の見積りに関する注記

一定の期間にわたる収益認識

① 一定の期間にわたり収益認識した完成工事高 53,964,192千円

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

一定の期間にわたり収益認識した完成工事高については、工事原価総額を基礎として当事業年度までの実際発生原価額に応じた工事進捗度に工事収益総額を乗じて算定しております。工事原価総額は、設計変更や原材料価格、労務費等の価格条件等さまざまな見積り等の要素等を考慮し見積りを行っており、適時・適切に見直しを行い、変更を行った事業年度に反映しております。なお、主要な仮定に変更が生じた場合、翌事業年度の計算書類において、完成工事高及び完成工事原価の計上に影響を及ぼす可能性があります。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 8,395,665千円

(2) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりです。

① 短期金銭債権 26,012,929千円

② 短期金銭債務 435,469千円

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

① 売上高 38,515,594千円

② 仕入高 1,872,108千円

③ 営業取引以外の取引高 153,187千円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

株 式 の 種 類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普 通 株 式	365千株	一千株	一千株	365千株

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

賞与引当金	336,732千円
工事損失引当金	265,730千円
未払事業税	58,798千円
未払社会保険料	49,779千円
退職給付引当金	1,903,788千円
出資金評価損	13,522千円
貸倒引当金	2,291千円
資産除去債務	38,187千円
減損損失	43,907千円
その他	86,482千円
繰延税金資産小計	<u>2,799,221千円</u>
評価性引当額	<u>△118,025千円</u>
繰延税金資産合計	<u>2,681,195千円</u>

(繰延税金負債)

収益認識基準適用遡及処理に伴う税効果	△10,487千円
過年度完成基準工事完成工事高	△92,295千円
固定資産圧縮積立金	△189,597千円
資産除去費用	△20,809千円
その他有価証券評価差額金	<u>△4,323,552千円</u>
繰延税金負債合計	<u>△4,636,743千円</u>
繰延税金負債の純額	<u>△1,955,547千円</u>

7. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他関係会社	東海旅客鉄道(株)	112,000,000	鉄道事業	0.4 (23.2)	受注工事の施工 役員の兼任	電気工事等の施工	37,164,284	完成工事未収入金	17,004,765
								契約資産	7,848,535
						出向者 人件費	1,167,423	未払費用	86,961

(2) 子会社等

種類	会社等の名称	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	(株)東海電業	10,000	設備工事業	85.0	電気工事の外注 役員の兼任	当社受注工事の施工	325,393	工事未払金	57,157

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

上記の取引については、それぞれ一般取引と同様に適正な価格で決定しております。

(3) 兄弟会社等

種類	会社等の名称	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の関係会社の子会社	JR東海財務マネジメント(株)	80,000	グループ内金融事業	—	資金の借入、預け入	C M S	4,301,734	預け金	619,920
その他の関係会社の子会社	ジェイアールセントラルビル(株)	45,000,000	不動産業	—	受注工事の施工	電気工事等の施工	1,351,310	完成工事未収入金	1,155,517

(注) 1. 当社はJR東海財務マネジメント(株)と「CMS基本契約」を締結しており、JR東海グループ会社相互の余剰資金の融通の仕組みであるCMS(キャッシュ・マネジメント・システム)を利用しております。そのため、JR東海財務マネジメント(株)に対する短期借入金又は預け金の残高は日々変動しております。

なお、取引金額については、期中における残高の平均金額を記載しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

上記の取引については、それぞれ一般取引と同様に適正な価格で決定しております。

8. 収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「連結注記表（収益認識に関する注記）」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

9. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	4,586円24銭
(2) 1株当たり当期純利益	141円11銭

10. その他の注記

(退職給付関係)

(1) 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

(2) 確定給付制度

① 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	6,419,744千円
勤務費用	464,614千円
利息費用	6,420千円
数理計算上の差異の発生額	△19,169千円
退職給付の支払額	△219,231千円
退職給付債務の期末残高	<u>6,652,377千円</u>

② 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

積立型制度の退職給付債務	6,652,377千円
積立状況を示す額	<u>6,652,377千円</u>
未認識数理計算上の差異	△430,847千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	<u>6,221,530千円</u>
退職給付引当金	<u>6,221,530千円</u>
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	<u>6,221,530千円</u>

③ 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	464,614千円
利息費用	6,420千円
数理計算上の差異の費用処理額	77,993千円
確定給付制度に係る退職給付費用	<u>549,027千円</u>

④ 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	0.1%
-----	------

(3) 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、当事業年度71,852千円です。